

27年7月議会

総合的人間力について

質問

皆さん、おはようございます。

吹田新選会、足立将一、戻ってまいりました。2,219名の、足立将一を選んでいただいた2,219名の御期待にお応えするよう、また、36万4,385名の吹田市民の皆様の人生が豊かになるお力になれるよう全身全霊をかけて勤めてまいります。

さて、市長がかわりました。施政方針演説において吹田が目指すべきビジョンを示していただく中で、そのお言葉にはしっかりと思いが込められていると感じました。一つ一つ具体化し、市民が吹田に住んで本当によかったと思えるまちづくり、また、北摂の中でも特に選んでいただけるまちづくりを進めていただくようお願い申し上げます。

さて、二元代表制の一翼を担う私ども議員は大きく分けて二つの役割がございます。一つは市政運営を厳しくチェックし、最終的には議決権をもって是正を図っていくこと。もう一つは72の目と耳を使い、市民の声を集め、36人の議員独自のさまざまな観点から政策提案を行い、住民福祉の増進を図ることです。

さきの政権では果たすべき役割が前者の部分が非常に多く、後者の部分については厳しいものがございました。その点、新市長の議会での真摯な答弁を伺っていると、私どもが後者の役割を果たしやすい環境をつくってくださっています。この状況に感謝し、機能する議会として存在意義をお示しできるよう努力してまいります。

それでは質問に移ります。

まず、教育施策についてでございます。

市長は施政方針において幼、小、中で受ける教育は総合的人間力を培う重要な時期と述べられております。また職員採用の部分においても人間力という言葉が使われております。この人間力という言葉、最近特に耳にすることが多いのですが、数値化できないものであり、人によっては定義が異なることもございます。

市長は人間力ということを重視されているように感じるのですが、子供たちが培うべき人間力とはどのようなものか、また、職員に求められる高い人間力とはどのようなものか、それぞれお示しいただきますようお願いいたします。

後藤圭二市長

人間力という表現をさせていただきました。これは、さまざまな力がありますが、偏らず、総合的な力という意味を込めて表現をさせていただいておりまして、一般的な定義によりますと、社会を構成し、運営するとともに自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力とされており、年齢にかかわらず必要とされるものでございます。

御質問にございました、まず、本市の職員を希望する若者に求めたい人間力といたしまし

では、まず、基本的な資質として、組織人として働く、その資質でございます。これは当然ですが、その上で、公務につく上で高いコンプライアンス意識を持つ、それから市民に寄り添う心、それと、これも企業でも共通なんです、みずからを高め続ける向上心、これを必要だと思っております。

一方、子供が担うべき人間力といたしましては、そのような大人になる、その過程におきまして、確かな学力、そして豊かな人間性、健康や体力、倫理観、これらがバランスよく発達をする、総合的な人としての力、それが必要であると考えております。以上でございます。

質問

ありがとうございます。私ども政治家というものは、人々の模範となるべき存在と考えております。私どもも努力しますし、また、職員の皆様におかれましては、若手の職員に求められる人間力、それをしっかりと模範を部下の職員の皆様に示していただきますように、どうぞよろしく願いいたします。

私は大学生に対して議員インターンシップという形で学ぶ場を提供しており、市長と同じように人間力を伸ばすことに意識を置いております。その際、縦軸と横軸と志をキーワードにしております。

縦軸とは過去を知り、未来に思いをはせる時間軸のことでございます。そのために歴史教育を大事にしており、歴史の流れを捉え、今、自分はどのような時代に生きているのかを考える機会を提供しております。

横軸は、今、自分が置かれている社会的環境です。それは家族から始まり、地域、自治体、国、国際社会と広がるもので、今、自分がどのような社会を生きているのかを考える機会を提供しております。

この縦軸と横軸を持つことができれば、自分がどんな時代のどんな環境で生きているのかを把握でき、アイデンティティーを形成する大きな要因となります。

これらをもとに、古典や思想、哲学を学びながら、これから自分の力を使ってどのような役割を果たすべきか、誰のために、何のために生きるのかという志を立てる機会を提供します。この志が立てば、学ぶ意義やスキルを伸ばす必要性にみずから気づくことができます。その結果、積極的に学び、行動することにつながっています。

以上が、私が大学生に対し人間力を培うために提供している教育の機会です。

さて、市長に伺います。先ほどお示しいただいた市長の定義する人間力、それを培うためにはどのような教育が必要だと考え、その教育環境を整えるためには具体的にどのようなことが必要と考えますか。職員と児童、双方についてお答えください。

富田卓己学校教育部長

人間力を培うために必要な教育と教育環境について、市長にとのことでございますが、学

校教育部よりお答えいたします。

子供たちが新しい時代を生き抜くために求められているものは、総合的人間力の育成を図ることです。本市では、中学校ブロック全体で目指す子供像を共有し、小中一貫教育を積極的に展開し、思考力、判断力、表現力などの確かな学力、思いやる心、感動する心などの豊かな人間性、さらにたくましく生きるための健康や体力などの育成を図る取り組みを推進しております。

確かな学力の育成には、子供たちが学ぶ楽しさや喜びを実感し、みずから学ぶ意欲の醸成を図るため、授業改善を柱とした教員の授業力の向上を図ることが大切です。

また、豊かな人間性の育成には、互いに尊重し合える人間関係、集団や社会、自然とのかわりなどの体験活動を通して、自分の生活や価値観を見直し、倫理感や規範意識等の道徳的実践力を養うことが大切です。

健康や体力の育成には、意欲的に運動することができるための体育の授業や部活動等の充実や、基本的な生活習慣を確立する取り組みをさらに推進していくことが必要です。

今後とも、小中一貫教育の一層の推進を図るとともに、子供たちの豊かな学びと心を育む教育を推進してまいります。

以上でございます。

後藤圭二市長

ただいま縦軸と横軸という例えで御説明をいただきました。私も全く同じ考えでして、これは言いかえると時間と空間ということになるかと思えます。

来し方、行く先を知る、そして今を知る、それと他を知る、この三つの知をもとにして志を持たなければ独善的になる、また、その志を実現することはなかなかできない、そのように全く同感をするところでございます。

そのような基本的なところを押さえた上での人間力、その要素につきましては、大きく三つに整理をされているようです。

一つが知的能力、二つ目、社会・対人関係力、そして自己制御力。そのうち、自己制御力は知的能力と社会・対人関係力を十分に発揮するための基礎となるもので、これが家庭教育や地域教育、自学で獲得できていなければ、教育効果は十分に発揮されないと考えております。

そういう意味では、教育現場においては義務教育における指導の一貫性、継続性、具体的になんですが、教室の人数、また、ノウハウ、外部人材の活用など徳育に今以上に力を入れることができる環境の整備が、また、職員の人材育成につきましては、各職場でのOJTを担うトレーナーのレベルアップや、資格取得や庁内外の研究活動の奨励、国を初め他の組織に身を置く経験などが有効であると考えており、力を入れていきたいと存じます。以上でございます。

意見

ありがとうございます、非常に深く考えていただきまして。その環境をぜひ教育委員の皆様と協力して、子供たちに提供していただけるようによろしく願いいたします。